大阪府養護教育研究会会報

府養研ニュース　　2004年9月号

このページでは要点だけをお知らせしています。
追加記事は、本ページのリンクをクリックください。新しいウィンドウが開きます。

府養研ニュースは各種案内等の事務連絡と一緒に、毎月第1月曜日にEメールで配布されています。第1月曜が祝日であれば火曜日発行になります。来月10月は4日発行です。
一部メール網がまだ整備中もしくは検討中の市町村は、郵送または逓送されています。
アドレス変更の学校は旧アドレスと新アドレスをメールでお教えください。

平成16年9月6日発行　大阪府養護教育研究会（広報部）
事務局　豊中市立南桜塚小学校　会長　西田　益久　〒561-0882 豊中市南桜塚2-2-1
問い合わせ・ご意見は、Mailで本部役員まで

府養研から

ホームページもご覧ください。 http://fuyouken.visithp.jp
〇ニュースの全部とバックナンバー、講演会案内、報告、各種情報もご覧になれます。
〇各支部のページがあります。ホームページからご覧ください。（支部主催行事・講演等）

ご注意　ウィルスメールがしつこいですね。対策は完璧ですか？

役員総会（本部役員・支部役員のみ　今年度役員の方、ご予定ください）
もうすぐ●第2回平成16年9月9日（木）午後3時～5時　アウィーナ大阪3階生駒の間
●第3回平成17年1月13日（木）午後3時～5時　アウィーナ大阪3階生駒の間
終了　**府養研主催の障害者ケアマネージメント夏期研修会**
〇平成16年8月9日（月）～12日（木）　たかつガーデンにて
講義内容の概要はホームページ

研修部から

終了 実技研修会	2004年8月27日（金）10:00～16:00アウィーナ大阪 講師　象の会（内藤・松永・朝井の各先生） 120名もの参加者があり、大盛況のうち、無事終えることができました。 添付記事あり 象の会HP　http://www15.ocn.ne.jp/~zounokai/

終了 教育講演会	平成16年9月2日（木）14：00～　大阪府教育センター　大ホール 大阪の養護学級の今後　―「特別支援教育」構想などの分析を通して― 講師　大阪教育大学教授　大沼　直樹 約200名の参加でした。特別支援教育の現状、ガイドライン、文科省のこと、学校全体の支援体制、WHOのICFにおける障害の概念など印象に残る話がありました。 添付記事あり
テーマ別研修会	11月27日(土)14：00～八尾市文化会館プリズムホール 行動にさまざまな問題を示す子の理解と援助 Q&A分科会に分かれて、専門の先生方から具体的な助言をいただきます。多数ご参加下さい。 詳細が決まり次第お知らせします(案内発送は10月の予定) 一次案内はこちら

行事部から

終了施設見学研修	2004年8月25日（水）滋賀県立近江学園　甲西町発達支援センター

研究部から

終了 〇ICT活用プロジェクト夏期講座	日時 8月16日・17日　テーマ「2学期から役立つICT活用」 報告は　府養研ICT活用のページに順次掲載されますご覧下さい 以下のURLは講師や機器のホームページです。講座の雰囲気が伝わるかと思います。詳細は府養研ホームページで。 http://kanza2004.poke1.jp/　神佐さんのホームページ使えるソフト満載 http://homepage.mac.com/terumai/menu.html　くるくるクリックのページ http://www.kcn.ne.jp/~booboo/　広瀬さんが代表のホームページ http://fuyouken.visithp.jp/site.htm　府養研のサイト集 http://www.stratogate.co.jp/　顔マウス http://tablet.wacom.co.jp/solution/education/　ワコムの液晶タブレット http://fuyouken.visithp.jp/ict2003.htm　マウス改造 http://www.mentek-godai.co.jp/　五大エンボディ株式会社
終了 〇LD教育プロジェクト講演会	8月19日（木）サンスクエア堺（JR堺駅下車）にて　午前　分科会 午後講演「文字の習得と読み書き障害における認知機能（基礎編）」 筑波大学大学院人間総合科学研究科　助教授　宇野 彰 先生
〇自閉症教育プロジェクト	2004年10月20日(水)15：00～17：00 会場　泉南府民センタービル　第一セミナー室 －自閉症の心理学的な障害特性の理解と対応の基礎－ 講師　金井孝明先生（堺市立百舌鳥養護学校教諭）

○自閉症教育プロジェクト講演予定	予告　2005年2月24日(木)14:00～16:30 場所　サンスクエア堺（勤労者福祉総合センター） 高機能自閉症およびアスペルガー症候群の理解と教育現場での対応への示唆 講師　内山登紀夫先生（児童精神科医、よこはま発達クリニック）

各支部から

各支部のページが府養研ホームページ内で独立したホームページになります。
今後、支部のニュースはそこに順次アップされます。行事案内や報告等も載せられていきます。

中河内支部	8月23日 柏原市柏原東小学校にて 中養研指導技術講習会　音楽セラピー講習会が行われました。 報告は近日中にホームページにアップされます。

他団体から

参加された方、投稿よろしくお願いします。

ATACカンファレンス	**2004年12月 3 日（金） 4 日（土） 5 日（日）** 案内・申し込み　http://www.e-atac.jp/ 障害のある人や高齢者の自立した生活を助ける電子情報支援技術（e-AT）とコミュニケーション支援技術（AAC）の普及を目的。専門家のセミナー，実践紹介，ユーザ自身による発表，障害疑似体験，世界の最新動向紹介などを自由に選択して学べます。
大阪LD(学習障害)親の会 「おたふく会」	連続講座9月26日（日）　10月24日（日）案内添付 申し込みはこちら　http://www.normanet.ne.jp/~otahuku/ 学級及び学校での配慮と支援のあり方 －特別支援教育の実践に向けて－
第41回知的障害福祉月間 9月1日～30日	変革の検証　－確かな連携の構築をめざして－ 中央行事シンポジウム 9月26日（日）>案内は先月号に添付
全特連	http://www5f.biglobe.ne.jp/~zentokuren_h/　10月27日（木）～29日（土）
全国肢体不自由研和歌山（二次案内）	http://www.nanki-sh.wakayama-c.ed.jp/zensiken/annai2.htm 11月17日（水）～19日（金）
厚生労働省から	在宅及び養護学校における日常的な医療の 医学的・法律学的整理に関する研究会の報告 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/05/s0531-11.html

終了 近特連奈良大会	http://www.eonet.ne.jp/~ues/kintokunara/ 8月5日（木）
終了 日本支援教育実践 学会シンポジュム）	http://www.ceser.hyogo-u.ac.jp/naritas/jasen/sympo2004.html 8月7日（土） **参加された保護者の方者からのご意見（投稿）** を紹介します。

『実技研修会』を終えて

府養研研修部

日時・・・平成１６年８月２７日（金）
場所・・・アウィーナ大阪
講師・・・象の会（内藤　壽、松永　榮一、朝井　翔二　各先生）

象の会ＨＰ http://www15.ocn.ne.jp/~zounokai/

内容・・・教材・教具の製作

繰り上がり計算機〔簡易型〕　　繰り下がり計算機〔簡易型〕
バースデイケーキ　　牛乳パック船・ガリガリ・ピンホールカメラ
仮名コロリン　赤いとり、ことり

～みなさんのアンケートから～

感想

☆とても楽しかった。
☆教材製作に四苦八苦しましたが、苦しくも楽しく取り組めました。
☆象の会の先生方の作っていただく教材はどれも楽しいものばかりです。
☆パタパタと絵が変わっていくのは面白そうですね。
☆とても充実した時間でした。ワクワクして作りました。
☆毎年、本当に楽しく参加させてもらってます。去年作った鬼のマントのボール投げは、どれだけ楽しく遊んでいることか。　とてもヒットでした。

今後、取り上げて欲しいもの

☆前に参加させていただいて教えてもらったくるくるタワーのような目で追う力をつけるもの（子どもたちに大人気でした。）
☆繰り上がり、繰り下がりときて、かけ算やわり算を楽しく視覚的に学べるもの
☆タイマー
☆スイッチを押すと音が出るおもちゃ
☆染色
☆飛び出す絵本
☆きょうしなかったもの

大阪府養護教育研究会に対する要望

☆こういう機会を年に何回か持って欲しい。
☆夏休み期間中に実技以外の研究会があればと思います。

～実技研修会を終えて～

３人の講師の先生方をお迎えして、今年も実技研を実施させていただきました。多くの先生方の笑顔、真剣なまなざしに出会えまして、研修部一同喜んでおります。３人の先生方の子どもに対する気持ちについてのお話も聞いてみたいとも思っています。

養護教育講演会『今後の特別支援教育と養護学級のあり方について』

大阪教育大学　大沼直樹

を終えて

200 名あまりの参加者の中、特別支援教育の現状、ガイドライン、文科省のこと、学校全体の支援体制、ＷＨＯのＩＣＦにおける障害の概念など印象に残る話がありました。

また、大阪が全国に先駆けてのノーマライゼーションに基づいた養護教育の実績の話などこれからの実践への勇気づけになる内容もいろいろ盛り込まれていて、これからの実践につなげることができそうです。

以下は、みなさんからいただいたアンケートの抜粋です。

本日の講演について

☆ 目の前にいるこどもたちに良い環境を用意できるのは一人一人の教師しかいないのだと思いました。

☆ あいまいだった特別支援教育の姿がだんだん見えてきました。

☆ 小学校の５校に１校程度しか特殊学級が設置されていないというような現状の東京では、大阪の方では状況が大きく違うらしい、意識が高いらしい等をよく耳にし、是非こちらの現状をお教えいただきたいと思って聞かせいただいたのですが、やはり非常に勉強になりました。

☆ 大沼先生の著書も読ませていただきましたが、しっかりした理論の上で、「できることから･･･」目の前の子どもたちに向かって取り組んで・・・という姿勢は、すごく学ばなければと思います。

☆ 特別支援教育については今からやっていくことですが、問題も多くありますが子どものためにより一層いいものができるように進めていけばと思いました。

府養研で今後取り上げてほしい研修会やテーマなど

☆ 大阪の特別支援教育モデル地区の具体的な取り組みを紹介してほしい。

☆ 今の養護学級と特別支援教室との具体的な違いを教えてほしい。

☆ 今後もっといろんな講師の特別支援教育についての話を聞きたい。
（須田正信氏、石塚謙三氏など）

☆ 重度知的障害についての話を聞きたい。

☆ Ｋ－ＡＢＣやＷＩＳＣ－Ⅲにより、その子の長所を知り、それを伸ばすことが大切だと考えます。府養研でもＫ－ＡＢＣやＷＩＳＣ－Ⅲの講習会を希望します。

平成１６年９月１日

各　学　校　長　様
障害教育担当者　様

大阪府養護教育研究会
会　長　　西田　益久

府養研　テーマ別 研修会

『　行動に様々な問題を示す子どもたちの理解と援助　Q& A　』

（一次案内）

府下の障害教育に関わる先生方から、日頃の指導に関わる疑問や悩みを相談できる機会がほしいとのご希望をお聞きしておりました。

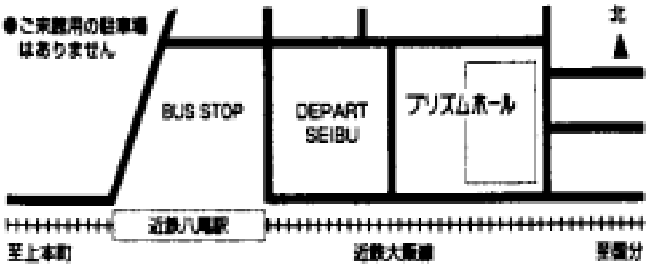
昨年に続き、本年度も、今日的な課題についての分科会を設定し、『テーマ別研修会』を計画中です。

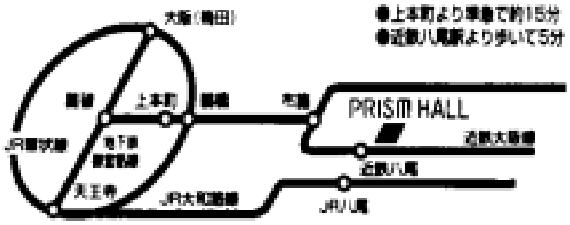
助言の先生方のお話をお聞きしながら、日頃悩んだり困ったりしていることを出し合いたいと思います。養護学級担任の先生方だけでなく、通常の学級の先生方も、是非ご参加下さいますよう、ご案内致します。

１．日　時　　平成１６年１１月２７日（土）午後２時～４時３０分
（受付 午後１時３０分より）

２．場　所　　八尾市文化会館（プリズムホール）
八尾市光町２丁目４０番地　（℡ 0729-24-5111）
近鉄大阪線八尾駅下車　徒歩５分
（上本町駅より準急約１５分）

３．申込先　　テーマ別に分かれて各分科会担当者まで、
ＦＡＸで申し込んでいただきます。





各分科会の内容については、只今、講師の先生と交渉中です。
昨年とほぼ同じ内容の分科会になりますが、詳しくは、１０月号の府養研ニュースをご覧下さい。

平成 16 年 9 月 5 日

学校長様
養護教育関係者様

大阪府養護教育研究会
会長　西田益久

府養研研究部・自閉症教育プロジェクト第２回研究会開催のお知らせ

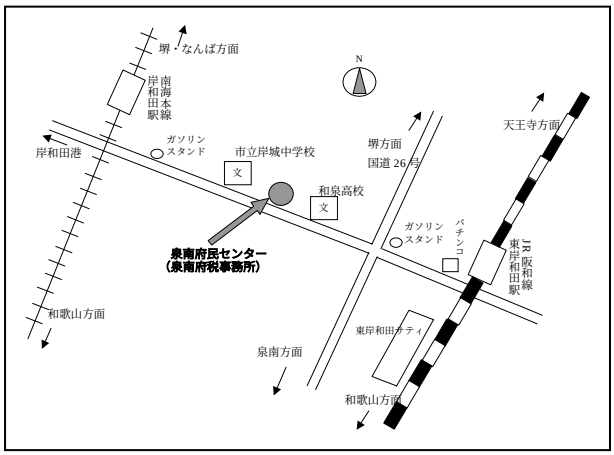
暑い日がまだまだ続いております。平素は養護教育の振興と本研究会の発展のために格別のご厚意を賜り、誠にありがとうございます。

さて、大阪府養護教育研究会（府養研）では、本年度より立ち上げました「自閉症教育プロジェクト」の第２回研究会を下記の内容で実施いたします。自閉症児の教育指導に関する研究会／研修会の開催ならびにさまざまな関連情報の共有についても府内の教職員間のネットワークづくりをいっそう進めていく計画でございます。つきましては、第 2 回研究会への貴校の先生方の参加に関しましてご配意いただきますとともに、あわせてご案内申し上げます。

記

１．日　時　平成 16 年 10 月 20 日（水）
午後 3 時～5 時

２．場　所　泉南府民センター　第一セミナー室
〒596-0076　岸和田市野田町 3-13-2
Tel.0724-39-3601
※南海本線岸和田駅（特急・急行停車）より東へ 800m、または JR 阪和線東岸和田駅（快速停車）より西へ 900m



３．内　容

【 講　演 】

テーマ　「自閉症の心理学的な障害特性の理解と対応の基礎」

講　師　　堺市立百舌鳥養護学校教諭　金井孝明先生

自閉症の心理学的な障害特性から、彼らがまわりの世界をどのように認識しているのか、どのようにしてかかわろうとしているのかを知ることで、実践場面での具体的な対応がより工夫しやすくなります。

高機能自閉症、アスペルガー症候群をはじめ自閉症理解の本質にかかわる基礎的な心理特性についての理解を深めたいと思います。そして、例えば「構造化」や「視覚支援」と呼ばれる方法の意味も考えてみたいと思います。さらに、それらに基づき具体的な場面での対応はどうすればよいのかを考えます。

※ 参加申し込みはいりません。当日会場に直接お越しください。問い合わせは、府養研事務局までお願いします。府養研事務局 E メール ＿＿＿＿＿＿＿＿

（以上）

大阪ＬＤ(学習障害)親の会　「おたふく会」 連続講座

学級及び学校での配慮と支援のあり方

―特別支援教育の実践に向けて―

このたび「特別支援教育」への大転換により、これまで「特殊教育」の枠にはまらないとして制度の谷間にあったＬＤ、ＡＤＨＤ、高機能自閉症、アスペルガー症候群等の子どもたちが、その対象となり、必要な特別の支援が受けられる事となりました。

その実現に向けて、本年１月には「ガイドライン」（試案）が策定され、中央教育審議会における制度的検討の開始、「障害者基本法」の改正（定義に「その他の発達障害を有する者」の追加)、また超党派による「発達障害者支援法案」が国会審議にのぼるなど、ＬＤ等をとりまく社会的状況は、これまでのことを思えば、まさに加速度的に動いています。

それでは実際の当事者である子どもたちの現状に目を向けた時､その日々の活動の場である学校や教室において､その支援の中身は具体的にどうなるのでしょうか｡いきいきと充実した学校生活を送るために､子どもたちが本当に必要としている配慮や支援とはどういったものなのでしょうか。また、子どもたちが日々接している学校の先生方には、実際にどういった方法で取り組んでいただければいいのでしょうか。そして保護者としては、今後、学校や先生方に対して、どのようにしてさらなる理解・支援を求めていったらいいのでしょうか。

現場においては、新たにさまざまな課題が生まれています。

そこで、このたびおたふく会では、保護者と先生方との協働による「特別支援教育」の実現に向けて、実践に重点を置いた連続講座を開催することといたしました。

第１回目を４月の総会に併せて行い、その後も６回の講座を企画しております。今回は、第２回～第７回の６回分の講座についての参加を募ります。

真に当事者＝子どもたちのための「特別支援」とは何なのか、さまざまな課題に取り組みながら、その具体的な中身について共に学び、考えていきたいと思います。みなさま、奮ってご参加をお願いいたします。

●期　間：2004 年 8 月～今年度中に後６回　各回・午後１時 30 分～４時 30 分
●会　場：ドーンセンター（大阪府立女性総合センター）　特別会議室ほか

●参加対象と予定人数：＊学校・教育・療育関係者、保護者、一般市民　＊各回 70～90 名

●参加費　※単発参加の場合：一般　一回１０００円（資料代含む）会員５００円（資料代含む）
●後援（予定）：大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、全国 LD 親の会

申し込み方法

①ホームページからメールで、または FAX（０６－６９５５－３７０３）にて受け付けます。参加費は当日お支払い下さい。http://www.normanet.ne.jp/~otahuku/
②定員になり次第すべての受付は締切ります。

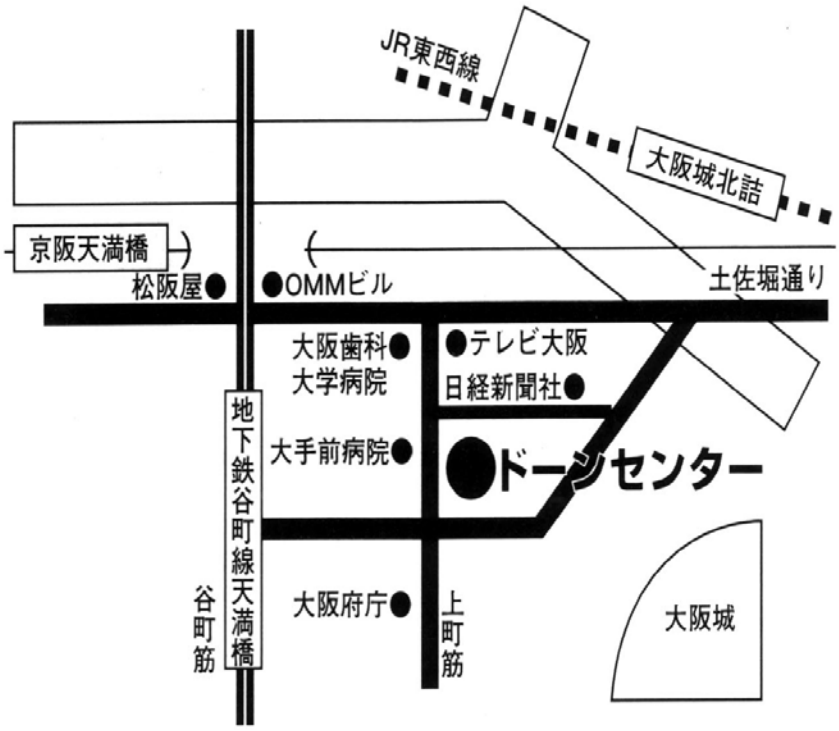
第3回：9月26日（日）午後1：30～4：40　ドーンセンター5階特別会議室
○ テーマ：特別支援教育と医療との連携
○ 講　師：亀岡智美氏（大阪府こころの健康総合センター診療課長、精神科医）

第4回：10月24日（日）午後1：30～4：40　ドーンセンター5階特別会議室
○ テーマ：発達障害のある児童･生徒と思春期の障害　～2次障害への向き合い方～
○ 講　師：小栗正幸氏（少年鑑別所専門官、LD教育士スーパーバイザー）

●問い合せ：大阪ＬＤ（学習障害）親の会「おたふく会」竹澤澄子
070－5435－3979（申し込みの受付先ではありません）
E-メール
（申込みは受付できませんので、ご了承をお願いします）

＜ドーンセンターへの交通機関＞

地下鉄谷町線・京阪「天満橋」駅[①番出口から東へ３５０m]
ＪＲ東西線「大阪城北詰」駅[②号出入口から西へ５５０m]



投稿『日本支援教育実践学会(JASEN)のシンポジウムに参加して』

枚方市　多田頼子

8 月 7 日に開催された日本支援教育実践学会の【特別支援教育をこのようにみんなで充実したい】というテーマのシンポジウムに参加させていただきました。
私には知的障害のある 16 歳の娘がいます。
ここではその娘の親として、シンポジウムに参加した感想を述べたいと思います。
私はあの日シンポジストの皆さんのお話しをお聞きして、ある視点からこの問題を語る方が少なかったことが気になっていました。
それは以下のことに関係しています。

＊ WHO では、1980 年に定められた国際障害者分類が 2001 年に改訂されます。
（日本はサマランカ宣言批准国）それは、障害を機能、活動の制約、社会参加の制限に分類した上で、障害とは環境との相互作用であると強調しています。
つまりそれまでの「障害は個人の属性」であり、障害はその人個人が持っているという捉え方ではなく、むしろ社会的関係性の中で障害が作られるとしているのです。その人が生きづらい社会構造・人々の意識があることが障害を生み出していると考え、それらの改善に取り組んでいくことが必要であるという考え方です。
たとえば、「障害のある子はこういう教育が望ましいのだ」と一律に考えることは、個々のニーズにあった教育ではないということになってしまいます。これからは個々の子どもの教育ニーズに応じて、出来うる限り制限を加えない方針が行政の側にも求められます。
つまり障害児教育は～こうあるべきという考えをまず捨てる事からのスタートであると思います。

以上のことを前提に考えると、
先日のシンポジウムでのお話は、1980 年の頃の「障害は個人の属性であって・・・」という枠を超えないお話が多かったような気がして、それならば、従来の養護教育とたいして変わりないような気もして少々残念に思っていました。
ただ滋賀県甲西町の先生のお話しなどは、ケースワーク的な具体例が挙げられていて興味深く聞かせていただきました。
私が不安を感じたのはお薬のお話でした。
「リタリンはそんなに悪い薬ではないから、状況をみて落ち着きのない多動な状態の子には心配せず飲ませてもいい。それはある意味その子の為でもある」というような意見や
「我子がＡＤＨＤであるとなかなか認められない親もいるが、療育・治療・支援のスタートは早いほどいいので、一方でペアレントプログラムというものも考えている」などのお話しがありました。

もちろん先生は日々の診察の中で、子どもたち一人ひとりに丁寧に関わっておられる方であると思っています。
ただ私は、今後の特別支援教育に関するシンポジウムの場であのように語られることに少し不安を感じてしまったのです。
医学や教育の専門家といわれる立場の先生方にも、なぜ親が我が子の障害を認められないようなことが起るのか､どうしてそんなに親がしんどくなるのか、そういったことをもう少し理解していただけるといいなと思っています。
親は学級崩壊の原因が我子だと周りから見られていたり、友達をいじめているとか、多動だとか、または「早く子どもの障害を認めなさい」というメッセージを感じたり、そして自分自身も我が子をどうしていいかわからなくて手を焼いて困っていたりしたら、ついつい薬に頼りたくなるものですし、それも当然の気持ちだと思うのです。
そのような時は薬が大丈夫であるかないか、そういったことが冷静に判断出来るような状態ではありません。
　これは私事ですが、娘の反抗期に手を焼いている最近のこと。
私も娘がおとなしくなるのだったら薬を飲ませようか、いいお薬はないものかなどということをふと思うことがあるのです。でもその時の「飲ませようかしら？」は、親や大人たちが困って、自分が楽になりたいと思うからです。
子ども自身も勧められて飲むうちに、実際に楽になるということを感覚として知ってしまったら、きっと習慣化すると思うのです。それはもう薬物依存です。
実際私の娘も「気持ちが楽になるから」といって、うちにあるロイヤルゼリーを飲んでいた事がありました。ロイヤルゼリーだからいいやと思ってそのままにしていましたが、その時に、本人も自分のイライラをなんとかしたいのだろうなと思いました。
彼女を見ていたら思春期のイライラとよく似ていますので、みんなにありがちなことなら時の過ぎるのを待つしかないかと、私は基本的には思っています。
しかし、これがもし学校に迷惑をかけていて娘の状態がみんなから辟易されていて、勧められるままに病院に行き、普段はなじみのないお医者さんに「これは薬で落ち着かせた方がいいでしょう。本人のためですから」といわれているのに薬を服用せずにいたら、どうでしょうか？学校の先生や周りの人たちが聞いたら、きっと「どうして飲ませないの？」っていう風に見られてしまうでしょう。
普通の子がよく陥る思春期のイライラや反抗を、娘だとそんなふうに解釈されかねない。
このように、みんなに迷惑をかけていると思っている時に親が子どものことを考えて自己決定するのはとても難しいことだと思うのです。
大抵の障害児の親はそうではないのでしょうか。
子どもにとってのはずが、親がみんな(世間)の期待に応えて薬を使う。
そしてホッとして楽になる。
診察を受けて薬の話が出るときには、大抵の親子が追い詰められている場合ですから、専

門家の先生方には、その発言がどれだけ社会に影響を及ぼすことになるかということと、親の気持ちをそこまで配慮してくださった上で話していただきたいと私は思いました。
　学校や地域社会での一つひとつの出来事は、すべてその子（人）単独では起り得ないことばかりだと思います。学校なら子ども達の関係の中で起ること。
個別支援だけではインクルージョンのための本当の支援は出来ないでしょう。
シンポジウムの全体の印象として個別支援を中心に語られることが多く「共生共育の視点」が足りないように感じて、それだけでは２０年も遅れていると思いました。

ここにひとつのケースをあげてみます。
（これは実際のケースです）
＊ＡＤＨＤのＴ君の場合。
Ｔ君のクラスでは、学級崩壊の状態がしばらく続いていました。
彼の多動なところや暴力的なところが先生は気になっていて
学級崩壊のことと合わせて、学校からＴ君の発達検査を両親に
勧めるという指導もされていた。
学級崩壊については、Ｔ君が引き金になって起ることが度々で
周りにも乗せられて動き回るという生徒が 3〜4 人いた。
Ｔ君は検査の結果、ＡＤＨＤと診断され、両親はショックも当然あったが
原因がわかりホッともするような状態であった。
担任と両親の間で今後の事も話し合われた。
しかし一方で、学級崩壊の原因をもう少し探っていった結果
Ｔ君の周りの生徒達が、授業中にＴ君を落ち着かせなくして
何かをはじめるきっかけを故意に作っていた事がわかった。
Ａ君は家庭にしんどい問題がある子、
Ｂ子ちゃんは先生に反発を感じていた子、
Ｃ君は勉強が遅れていた子、
Ｄ君は他の子からいじめを受けていた・・・
そういう事がわかり、それらの子達がＴ君の特性をもともと知っていて
Ｔ君が落ち着かなくなるようなきっかけを無理にけしかけて作っていたために
学級崩壊が解決しなかった・・・ということがわかったのです。

　このケースは、丁寧にクラスの状態を探っていったから良かったと思います。
しかし、学校という場はこんな事だらけではないでしょうか？
このように当該児童が必ずしもクラス崩壊の原因になっているとは限らず、生徒達の個々に抱える問題が複雑に絡み合っているとすれば、その個々の子どもたちとクラス全体の問題の両側面からその時の問題をみていくことで、薬の必要がないかもしくは最小限で当該

児童の行動が落ち着いて学習も進み、クラス全体が落ち着く。
それがインクルージョンな教育といえるのではないでしょうか？
けっして、「当該児童だけが薬を飲み」、「行動が落ち着かなければまた薬が増え」、「個別支援計画に問題があるとされ」いつまでたってもその子だけが矯正の対象とならないようにと、私はその事だけを切に願っています。
　このように特別支援教育の意味は多様に深く広くあると思います。
複雑な人間関係の中で子ども達は育ち、生きていく力を身につけていく。
絡み合った糸をほどくのは大変な作業ですが、丁寧にほどいてそして見ていく必要も意味もあるように思います。
「教育というのは、教えるというよりも育ち合うという意味の方が大きいのです。
学校という場がそうなのです。」と、以前どこかの先生が、エデュケーションという言葉の意味を説明してくださったことがありました。
　　長々と述べてきましたが、シンポジウム参加をきっかけにして、
『個別教育支援計画がカルテ的なものにならないように』
『特別支援教育が治療的支援にならないように』
『学校で起った問題が、その子の障害のせいであるような問題解決とならないように』
『計画どおりに支援できなければ、その教師の責任とならないように』
『支援計画がその子の幸せや「こんな風に生きたい」「こんな学校生活を送りたい」という思いと大きくかけ離れてしまわないように』
改めてそんな願いを強くいだきました。
　以上が私の感想ですが、話し出せばまだまだあるような気もします。
今後も皆さんといろんなことを語り合える機会があればうれしいです。
そして、子ども達が共に育ちあうことを大切に考えていただきたいと思っています。